

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>■After</p> <p>建築名称 下段: 英語名</p> | <p>MACRO (Museo di Arte Contemporanea di Roma)</p> <p>Museum of Contemporary Art of Rome</p> | |  |
| <p>建築用途</p> | <p>大分類</p> <p>展示施設、教育施設</p> | <p>小分類</p> <p>美術館、研究所</p> | |
| <p>改修設計者</p> | <p>Odile Decq</p> | <p>URL</p> | <p>After 保存した外壁と新たに挿入したガラスによって新旧の対比を演出</p> |
| <p>所在地</p> | <p>イタリア、ローマ</p> | <p>Google Map</p> | |
| <p>改修年</p> | <p>1999, 2010</p> | | <p>撮影者 提供者</p> <p>柳沢伸也 (2017)</p> |
| <p>建築規模</p> | <p>展示スペース: 4350㎡</p> | | <p>概要 after</p> <p>MACROは、かつてビール工場及び馬小屋だった建物を転用した美術館。スケルトン部分を残し大規模改修を行った。デザインにおいて新旧の対比を強調している。</p> |
| <p>掲載書誌</p> | | | |
| <p>賞・選定</p> | | | |
| <p>■Before</p> <p>建築名称</p> | <p>the Birra Peroni Brewery</p> | | <p>概要 before</p> <p>1911年に建設されたペローニ・ビール工場は1971年に閉鎖。1999年にローマ市立現代美術館として開館したが、展示スペース等が不足だったため拡張することとなった。</p> |
| <p>建築用途</p> | <p>大分類</p> <p>生産施設</p> | <p>小分類</p> <p>工場、馬小屋、倉庫</p> | |
| <p>■写真</p> <p>Before</p> <p>既存外壁を保存して工事している様子 (新エントランス部分)</p> | <p>After</p> <p>サブエントランス上部には馬小屋の看板が残る</p> | <p>After</p> <p>拡張後の美術館中庭部分</p> |  |
| <p>撮影者 提供者</p> <p>柳沢伸也 (2005)</p> | <p>撮影者 提供者</p> <p>柳沢伸也 (2005)</p> | <p>撮影者 提供者</p> <p>柳沢伸也 (2017)</p> | |
| <p>■リノベーション内容</p> | <p>キーワード</p> <p>用途変更、大規模改修、外観保存、増築、対比、補強、痕跡、スケルトン</p> | <p>内容</p> <p>MACROは、かつてペローニ・ビール工場だった建物を転用した美術館。1999年に、旧馬小屋や倉庫などをリノベーションしたローマ市立現代美術館が開館したものの、展示スペースもコレクションの保管場所も不十分であることが判明し、新たに拡張、増築されることとなった。2000年に国際コンペが行われ、フランスの建築家オディール・デックOdile Decqが選ばれた。彼女は、周囲の都市環境とつながりを持たせるために既存スケルトンを残しつつ、現代芸術の多様な要求に応えるために内部空間や屋根において大規模改修を行った。内部は街路の延長を意図したコンセプトで設計され、周辺とのつながりのある空間が形成されている。新旧の対比を強調するデザインが採用された。</p> | |
| <p>■備考</p> | <p>増築コンペの完成予想模型。増築前の2005年に撮影。手前がオディールデックが設計した増築部分(2010年竣工)、奥が旧馬小屋を転用した部分(1999年竣工)。</p> | |  |
| <p>■作成者 氏名/所属</p> | <p>柳沢伸也/JIA再生部会</p> | | <p>管理者 記載</p> <p>SY-025</p> |